

KANSAI UNIVERSITY
KEIZAIJIN
CLUB
News

2020

It started aiming to attempt cultivating friendship in November, 1963

- 
- 第222回例会
 - 第223回例会
 - 第224回特別例会
 - 第225回例会
 - 秋のゴルフコンペ
 - 若手会 関大若手OBと
現役学生懇親会
 - 若手会 第2回懇親会
 - 若手会 忘年会

第222回例会

「いのち輝く未来社会のデザイン 1970年大阪万博から2025年大阪・関西万博に向けて」 大阪府立大学研究推進機構 橋爪紳也特別教授の講演を聞く

経済人クラブ(生田圭一会長)第222回例会が、5月13日に大阪新阪急ホテルで開催された。出席は来賓3名、新入会員2名、ゲスト2名を含め総勢51名だった。学歌斉唱で開会し、生田会長の挨拶の後、第1部で総会を開催し、その後、第2部で講演に移った。

今回は、講師に大阪府立大学研究推進機構 特別教授、大阪府立大学大学院 経済学研究科教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所 所長としてご活躍され、また、関西の都市政策や都市文化を研究され、大阪府と大阪市の特別顧問として万博誘致に構想段階から携わられている

橋爪紳也先生を迎え、1時間に亘り「いのち輝く未来社会のデザイン 1970年大阪万博から2025年大阪・関西万博に向けて」というテーマでお話いただいた。まず、1970年に開催された大阪万博について、橋爪先生が当時体験されたお話をお聞きすることができ、1970年の

大阪万博を経験できなかった世代の私にとってもその当時の‘熱’が伝わってきた。特に、東京ドームやカプセルホテル、缶コーヒーなどが、1970年大阪万博でのアイデアを基に作られたものであることを知り、万博が現在に繋がるイノベーションを創出したことに驚いた。そして、2025年に開催される大阪・関西万博の話に移っていった。これまでの万博は、開催国・開催地を中心として世界が集まってくるというイメージであったが、今回の大阪・関西万博は、すべての国が対等

であり、大小の国々が混ざり合うこと、多様性を認め合うということがこの万博のこれまでにない方向性を感じさせるものであり、「多様性」「共創」というキーワードが印象深かった。**2025年の万博は、大阪・関西万博とはいえ、大阪・関西が、もっと言うと日本だけが万博をやるのではなく、世界の人々とよりよい社会を作るために万博を開催するのだ**という橋爪先生のお言葉に、今回の万博の大きな意義・意味を感じた。

その後、講師を囲んでの第3部懇親会では、池内啓三理事長のご挨拶、寺内俊太郎校友会長による乾杯の後、新入会員及びゲストの紹介、ゴルフ部会と若手会の報告と案内、東京経済人クラブの案内などがなされた。大いに盛り上がった懇親会は、仁井ひろみ副会長の挨拶により閉会を迎えた。

今回、橋爪先生のご講演により、2025年大阪・関西万博への期待値が更に高まり、経営者が多く在籍する当クラブにおいて、それぞれの経営者がどのようにこの万博に携わっていくのか、一人一人が考えるきっかけを与えていただいた絶好の機会であった。

(平成20年法学部法律学科卒 幹事 糸野 慎一郎)



第223回例会

「商売の原理原則」

タビオ株式会社 代表取締役会長 越智直正氏の講演を聞く

経済人クラブ（生田圭一会長）第223回例会が、9月9日に大阪新阪急ホテルで開催され、2人の来賓の方々と、新入会員1人、特別参加者を含め総勢53人が出席した。学歌斉唱ののち、生田会長挨拶に続いて、早速、第1部講演に移り、講師にタビオ株式会社 代表取締役会長 越智直正氏を迎え、同氏から約1時間に亘り「商売の原理原則」というテーマでお話し頂いた。

越智直正氏は、まず大阪の靴下問屋を退社して自分で靴下卸売業の会社「ダンソックス」を創業し、今や海外にまでも出店する「タビオ株式会社」となるまでの道のりや関西商法といわれる商売の仕方について冗談や経験談を交えながら話された。また、**「経営者とはしたいと思うことを口にする、夢を語ることが仕事であり、アホでいいのだ、賢い人はアホの応援をしてくれるのだから」と、**

もっと夢を持って思い切って仕事をするのが大事だと熱く語られた。「学」という漢字は「まねる」という意味から出来たものであったり、「経営」というのはもともと「お経をいとなむ」から来ているなど漢字の意味や孫氏の言葉を交えながら、分かりやすく話して頂いた。最後に、もっと夢を持って商売しましょうと我々に檄を飛ばして頂き講演を結んだ。仁井ひろみ副会長から謝辞を述べ、講演会を終了。

その後、講師を囲んでの懇親会では、池内理事長、芝井学長のご挨拶、田中義信校友会副会長の乾杯の後、新入会員及び特別参加者の自己紹介、次々回第224回特別例会の案内、関西大学フェスティバルin中国の案内、ゴルフ部会からの案内、若手会の活動報告などが続き、懇親会は大いに盛り

上がった。最後に永尾俊一副会長の挨拶で締めくくった。

（平成9年工学部建築学科卒 副代表幹事 楠隆夫）



第224回特別例会

地方創生事業の施設見学と豪華なランチを堪能(淡路島)

関西大学経済人クラブ（生田圭一会長）第224回特別例会が、11月9日（土）に開催され、同伴者・ゲストを含む19名が参加しました。

今年の特別例会は、関西大学東京経済人倶楽部会長のパソナグループ南部靖之氏が淡路島で展開している「地方創生事業」として運営されているハローキティスマイルを見学、オーシャンテラスでランチという企画です。

9時に大阪駅西口をバスに乗って出発。車中では、生田会長の挨拶から始まり、参加者全員の自己紹介等、わきあいあいの雰囲気の中で北淡路島（東浦町）に到着しました。

まず、創業140余年の地蔵、千年一酒造の酒蔵見学でお酒作りの工程説明をお聞きし、蔵の2階を改造した部屋にて各種お酒の試飲をさせていただきました。長年地元根付き頑張られていることをお聞きしました。





次に淡路島の西海岸に移動し、外国のリゾートにある様な、豪華3階建てで素敵なレストラン、オーシャンテラスで、日本初のセルフrostスタイルによる淡路ビーフと淡路産の食材で作られた素敵な各種料理を堪能させていただきました。サプライズとして、このレストランをプロデュースされた、世界的に有名な山下春幸シェフがわざわざ東京より駆けつけていただき、いろいろご説明いただき、楽しく食事させていただきました。ゆっくりランチさせていただいた後は、小学校の廃校を利用し、リノベーションし活用されている野島スコラの見学させていただきました。

その後、ハローキティを前面に出して、地域活性化を掲げているハローキティスマイルの見学させていただきました。最後は、たこせんべいの里に寄らせていただき、帰阪の途につきました。日帰り一日、ゆっくり各種体験させていただきました。特別例会は無事終了しました。ありがとうございました。

(昭和61年工学部土木工学科卒 代表幹事 本間 敏司)



第225回例会

『夢が叶う法則』 宝塚歌劇団音楽講師 三ツ矢直生氏の講演を聞く

経済人クラブ第225回例会は、2月3日新阪急ホテルにて元宝塚スターの三ツ矢直生先生をお迎えして、61名が出席し、とても華やかな雰囲気の中、圧倒的な声量にドキッ！として始まりました。その後の講演と懇親会は、とてもステキな時間となりました。この様子を、新しく会員になられたばかりの女性会員2名とゲストの1名の方から、バレンタインの月に皆様にお伝えいたします。



【安岡優子（S62経済学部卒）】

最初に「アニマート（＝活気をもって）」と仰せられたお言葉どおり、始終、明るく覇気ある口調でのご講演、全てを楽しく前向きにお聴きする事ができました。周囲への感謝のお気持ちをお話の随所に述べられ、口には出されない努力をされてきたのだろうと感じました。その努力の末に結果を出されているからこそ、今も後輩の方々への優れたご指導が可能なのでしょう。「相手を否定する事なく指導する」従業員の指導の際に心がけたいと思います。そして、私自身も素直な心で回りの方々をリスペクトして、色々と吸収していきたいと感じました。お話の合間の歌もとても心に響き、あっという間のご講演時間でした。

【城戸礼子（S62経済学部卒）】

「アメイジンググレイス」の独唱で始まったご講演、迫力のある美しい歌声に、三ツ矢先生の人生が詰め込まれているようで、気持ちが引き付けられました。ご自身の才能にも恵まれ、ご家族のご協力と後押しで、夢を次々と叶えて行かれる過程を、美しい歌声を交えてお話下さいました。私が印象に残ったところは、三ツ矢先生が指導者となられて、若い人達にアドバイスをされるようになり感じられたこと、「習うときは素直に」という事です。「アドバイスをすると、自分のやり方と合わずに拒否するひとがいるが、アドバイスを受けるという事はプレゼントをもらおうと思えばよい。プレゼントが自分に合えば使えばよいし、合わなければ使わなければ良いだけ。」「自己肯定力は強くないといけないが、素直であり、人へのリスペクトがある人たちが成功へ導かれているようだ。」これらの言葉には深みがあり、また音楽、舞台の世界だけでなく、我々経済人として生き抜いていく上で、大切な事であると感じました。芸術の世界のお話を伺う機会はあまりありませんでしたので、大変楽しく拝聴させていただきました。関係各位の皆さまに御礼申し上げます。



【三好貴子（ゲスト参加）】

参加の動機は営業を志望しておりますので、諸先輩方の経験談等を伺えたらと思い参加致しました。設計事務所の営業は形がある物を売買する訳ではないところが難しく、どうやったら良いものか悩んでおりましたが三矢様が講演の中で仰ってくださっていた「やりたいことをする」、「整う瞬間がある」がシンプルですがとても大切な事だな、と気付かされました。参加できて良かったですし、経済人クラブにお誘いくださった森田様にも感謝しております。よろしくお願い申し上げます。

各テーブルの華やかな談笑は、会の新しい「動き」を感じさせてくれました。後日、「素晴らしいご縁に感謝します。」と講師の三ツ矢直生様からのお礼状が届きました。初夏には関西で演奏旅行のご予定とのお知らせもありました。

アニマート：「活気をもって」 これからの合言葉です！

（昭和 48 年法学部法律学科卒 副会長 仁井ひろみ）



秋のゴルフコンペ

TOPICS



経済人クラブ（生田圭一会長）秋のコンペが、恒例の名門茨木カンツリー倶楽部西コースで9月25日に20名の参加で開催された。

今回は紅一点、藤田喜枝氏も参加下さり先輩らに混ざってプレーを満喫して頂きました。女性会員の皆さまもどしどし参加お願いします。

平均スコアの方は、散々たるもので、いつも茨木カンツリー倶楽部さん、申し訳ありません（笑）優勝は堀義博氏、準優勝は村上康司氏、3位は富永昌雄氏、ベストグロは岩崎圭祐氏であった。

（平成4年文学部卒 副代表幹事 横田 英哲）



若手会

次世代を背負って立つ若手メンバー同士が気軽に交流を図る事ができるように設立された会です。交流会・研修会だけでなく、趣味や遊びを通じて、若手世代の交流と親睦、自己啓発を図り、母校関西大学出身者による人脈の形成を目的としています。

令和初 関大若手OBと現役学生 懇親会

令和元年5月17日に関大OBが経営されている大阪福島にある『ハチマル蒲鉾』で開催された。通常の若手会では、OB同士でビジネス関連の話で盛り上がる事が多いところ、今回は現役関大生で就職活動中の2名が参加しているということもあってビジネス関連ではない話で大いに盛り上がった。話の内容としては、いまの学生がどのような会社就職したいと思っているのか、そして、大学生がどのようなことに興味を持ったり、どのようなことに悩んでいるのか、ということを知ることができる機会となった。我々の時代も、令和となった現在も変わらないことは、就職活動で、初めて自分自身を見つめ、自分になにができるのか、なにがしたいのかを自問自答し、悩んだり不安になったりするという事だった。今後はOBとして、悩める現役関大生のサポートもできる会を運営したいと感じた。



2019年度 第2回懇親会

参加者35名と大盛況での開催となった。今回は若手会らしく39歳以下の経営者が多数参加した。雰囲気としては、初参加の方が多く、積極的に名刺交換をしたり、ビジネスの話題中心に大いに盛り上がりを見せ、とても活気ある会になった。

今回は大人数のため公式な二次会はしない方針であったが、活気ある若手会らしく今回出逢った仲間同士で各自二次会も開催されており、より深い関係構築となったようだ。



2019年度 若手会忘年会



今回は参加者18名で北浜のビアバーのワンフロアを貸し切って夜景の見える贅沢な空間の中行われた。経済人クラブより楠先輩と経営される宿泊施設のアルバイトスタッフで現役大学生のお二人をゲストとしてお迎えし、世代を超えた活発な交流がなされた。参加メンバーは以前より参加経験のある方のほか、初参加の方も複数参加があり、様々な業種、役職の多様な参加者同士が活発に交流できる会となった。また、途中、席を入れ替えるなどできるだけ多くの方々が交流できるよう対応した。

終わりに糸野幹事より今後の活動案内と、経済人クラブの楠先輩によるご挨拶で締めくくった。

（平成18年経済学部経済学科卒 若手会担当 今村 聡）